

平成27年度 学校評価実施報告書

学校名( 京都市立花背小中学校 )

1 平成27年度 重点評価項目

1 確かな学力の育成(小中9年間の一貫教育による確かな学びの構築)	2 豊かな心の育成(施設一体型一貫校・へき地小規模校の特性を活かした協働活動)
3 健やかな体の育成(基本的生活習慣の確立、体力の向上)	

2 1回目評価

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定						自己評価		学校関係者評価	
						評価日	平成27年8月27日	評価日	平成27年9月29日
						評価者・組織	学校評価委員会	評価者(いずれかに )	学校運営協議会 学校評議員
	分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価に よる意見	学校運営協議会・学校評議員による改善 に向けた支援策
1	確かな学力	わかる授業の創造 読書の習慣化 家庭学習の習慣化	・各教科での言語活動のさらなる充実 ・全体での授業研究 ・毎日の朝読書の実施 ・100冊読書の取組 ・学校図書館の整備と活用 ・読み聞かせの実施 ・学年に応じた課題提示 ・テスト前をはじめとする家庭学習計画表の取組	・京都市学習プログラムの結果 ・授業研究会の実施 「読書をしっかりとしていますか」 「家庭学習をしっかりとしていますか」	ジョイントプログラム第5回[小学校総まとめ]総合・国語・算数すべてにおいて、全市平均を大きく上回る。 「できている」児童生徒の割合は97%、保護者の割合は64% 「できている」児童生徒の割合は87%、保護者の割合は64%	・少人数を活かした指導により、一定の力はついている。また、発表の機会が多いため、話す力はついてきているが、相手意識をもったコミュニケーションにはまだ課題がみられる。 ・(新聞も含めて)朝読書には集中して取り組めているが、読書がそれだけに終わっている子どももいる。読書量にも個人差がある。 ・宿題等、与えられた課題にはしっかり取り組めている。「習慣化」という点からすると、まだまだ十分とは言えない。	・TV会議による他校との交流等、コミュニケーションの場をより広げていく工夫をする。 ・読書の習慣化に向けて、家庭でも協力していただく。また、さらに本に関心をもたせるために、「読み聞かせ」「本の紹介」等、学校図書館を積極的に活用していく。 ・家庭学習の習慣化に向けて、家庭でも協力していただく。さらに力を伸ばしていくために、学年や期に応じて、学習の仕方や内容等の具体的指導を行っている。	・児童生徒の多くが自分の将来の夢や希望をもって学校生活を送っているように思える。それが具体的にどのようなものか、とても興味があります。 ・他校との交流会と一緒に参加させていただきましたが、大人数を前にして大きな声で堂々と発表や説明をしていたのを見て、とても感心しました。 ・家庭学習に対する取組は、家庭によっては兄弟姉妹の中でも差があるようなので、「自主的」「定着化」のためのポイントは何か、広く交流してみるのもいいかもしれません。	・放課後まなび教室には、学習に対する主体的な態度を育成するというねらいもあるので、地域人材のさらなる活用などスタッフ面からのサポートも考えられます。 ・学習面に限らず全般的に言えることですが、まずわが子の様子をしっかりと振り返ることが改善に向けた取組を考える上で大切になるので、例えば保護者会の中で時間設定をしてみんなでじっくりとアンケートに取り組むことなどしてみたいと思います。
2	豊かな心	豊かな体験活動の実践 あいさつの励行と望ましい言葉遣いの徹底 支え合い高め合う集団づくり	・花背ファームの取組 ・「花背学習」における地域の伝統や文化にふれる活動 ・登下校時の声かけの取組 ・異年齢集団による縦割り活動の取組	・「学校行事や地域の行事に進んで参加していますか」 「友だちや教職員の方や地域の方に進んであいさつをしていますか」 「丁寧な言葉遣いができていますか」 ・児童生徒の変容 ・振り返りアンケートの記述内容	「している」児童生徒の割合は97% 児童生徒の割合はそれぞれ「よくしている」73%「よくできている」27% リーダーである9年生は自身の姿を通して「諦めない心」「協力することの大切さ」「笑顔の底力」を下級生に伝えていた。	・地域学習「花背学習」生活科学学習等により、地域の伝統や文化に目が向き、地域を愛する心が着実に育ってきている。 ・登下校時のあいさつはよくできようになっている。TPOに応じた言葉遣いや行動にはまだ課題がある。 ・縦割り活動の取組がしっかりと根付いていて、リーダーシップやフォローシップを育む場となっている。	・地域との連携を密にしながら、花背学習の取組をさらに充実する。 ・全体的な行事への参加や他校との交流等を有効に活用して、社会性を身につけていきたい。 ・下級生に憧れられ、よきモデルとなるように、あらゆる場面や機会を通して「上級生」を育てる。	・地域の中でもあいさつはしっかりとできています。声も大きいですね。 ・下級生にとっては、上級生の影響は良い面だけに限らずとても大きいので、学校はしっかりと見守ってあげてほしいです。 ・地域活性化についての学習をより深めるという点で、花背ファームでは実際に地域の特産品を育ててみるのはどうでしょうか。 ・子どもたちにとってより有意義な地域学習となるためにも、指導者である先生方にもっと地域のことを知ってほしいです。	・地域のことに關して、いくらでもお話ししますので、どんなことでも気軽に聞いてください。
3	健やかな体	基本的生活習慣の確立 体力の向上	・毎日の健康観察カードの取組 ・保健指導 ・遊びやスポーツを通した運動の習慣化 ・4年生からの運動部活動の実施	・「早寝・早起きなど、規則正しい生活をしていますか」 「しっかりと運動をして、体力をつけていますか」	「している」児童生徒の割合は87% 「している」児童生徒の割合は80%	・健康観察カードのチェック項目が生活を見つめるよい指標になっていて、全体的に生活習慣は定着してきている。 ・少人数のため、体育や部活動での一人一人の活動時間が確保できている。その反面、大人数でするスポーツができず、遊びにも偏りがある。	・生活習慣について課題のある児童生徒には個人的に指導を継続していく。 ・意図的な縦割り遊びの実施等、月に1回程度全校児童生徒で遊ぶ時間を設定し、いろいろな遊びに取り組む。	・冬季は運動できる場所が制限されるため運動不足が懸念されますが、特色あるスキー学習が今年度も実施できる見通しであるとして、安心しました。 ・家庭でも部活動の話をよくしてくれ、楽しんでいる様子です。 ・大人と一緒に遊ぶこともよいと思うので、特に若い先生に期待しています。	・地区によっては少年野球や「すこやか」学級、での大学生ボランティアによるスポーツ活動を行っています。指導者に関しては地域人材の高齢化という課題もありますが、今後このような活動の場を提供できるようにしていきたいです。
4	独自の取組	小中一貫教育の充実と発展 情報発信の充実	・期の取組 ・花背わくわくバンドの取組 ・積極的なホームページの更新 ・学校だより等の全戸配布	・期の会の実施回数 ・演奏発表回数 ・学校ホームページのアクセス数 ・全戸配布回数	発表は、運動会と森都府フェスティバルの2回、新曲1曲を披露 ・1日平均アクセス数40回前後 ・学校だより6回及び学校行事等のお知らせ4回(全戸250部)	・花背わくわくバンドの取組では達成感が味わえている。スキー等も含めて、花背でしかできない取組に子どもたちは誇りを感じている。 ・ホームページを活用して、学校の取組を積極的に発信できている。より多くの地域の方に実際に学校に足を運んでいただくように、学校行事お知らせプリントの全戸配布も行っている。	・新しい曲への挑戦を通してレパートリーを増やし、取組に対する意欲をさらに高めていく。 ・行事ポスターの作製等、子どもによる地域への発信や呼びかけも行っていく。	・保護者は、毎週のおたよりや参観、日々の子どもたちの様子を通して日常的に学校の様子を知る機会も多いと思いますが、地域からは学校の様子がなかなか見えにくいので、先生方もどんどん地域に出かけるなどして、学校が地域にとけこんでいくと地域からの協力ももっと得られるようになると思います。 ・昔は、教員住宅に住む先生も多かったのですが、特に意識なくとも学校と地域が互いに触れ合うことができていたのかも残念ですね。	・話を聞いてみたいことがあったらぜひ相談してください。詳しいことをご存知な方を紹介することができるとと思います。 ・毎日(特に冬季)の運動の不安が解消できれば花背校で働いてみたいという声も聞きますので、教員住宅の改修などの声も上げていきたいです。